

中国の鉄道 今と昔

湯浅 真澄

今回、大学のある太原市から北京に行く機会がありました。移動は鉄道を使うことになり、行きは高铁（高速鉄道）、帰りは火车（汽車）に乗ることにしました。中国の新しい鉄道と古い鉄道の二つに乗り、気づいたその違いや感じたことなどについて、今回は話します。

中国において、長距離輸送、移動の手段として最もポピュラーなのが、鉄道です。清朝にイギリスによって敷設されたのが中国の鉄道の始まりで、2015年度末には、鉄道の国内総距離が世界第二位（一位はアメリカ）になるほどの大きな発展を遂げました。私たちの住むここ太原市にも数年後には地下鉄ができるなど、中国の鉄道の発達はまだまだとどまる気配がありません。

（1）高铁（高速鉄道）

高铁（高速鉄道）は、日本の新幹線に相当します。もともとは外国の技術援助を受けて建設が始まりました。私が乗ったのは复兴号（復興号）と名付けられた、最も新しい車両です。流線形のボディーはピカピカ。車内も木目のデザインがおしゃれです。広いシートにはコンセントが整備されていて、とても便利。全体的にゆったりとしていて、快適です。また、揺れが非常に少なく静かなので、乗り心地もとても良いです。太原—北京間がたったの約三時間。あまりの快適さに私はいつの間にか寝てしまい、気づくと終点の北京駅でした。



高铁（高速鉄道）复兴号（復興号）の外観。まるで日本の新幹線のようなです。



中は広くてゆったりと
しています。乗客も景
色やスマホを見たりし
て、落ち着いて過ごし
ている印象。

(2) 火车 (汽車)

火车 (汽車) の中でも私が乗った快速车 (快速列車) は、日本の急行列車に相当します。緑のボディーに黄色の線の入った外観は、レトロで独特の味があります。座席の車両とベッドのある寝台車があります。車内は古くて、少し汚いです。座席の車両内は全てのソファが向かい合っていて、6人または4人の真ん中に小さなテーブルがあります。乗客が向かい合って座るため、夫婦や友達同士、知らない人同士で会話をしている様子がしばしば見られます。高铁 (高速鉄道) に比べて走る速度が遅くて、止まる駅も多いです。長旅の間、乗客はおしゃべりしたり、寝たり食べたりして過ごします。ですから、高铁 (高速鉄道) と比べると、車内は賑やかでうるさいです。また、狭いシートに知らない人同士が向かい合わせで座り、座席の上の荷物置きに入りきらなかった荷物がテーブルの上や通路に置かれます。そのため、かなり狭く感じます。特徴は、車内販売が豊富なことです。日本で一般的に見られるような、お菓子や飲み物、お土産を乗せたワゴンから、果物専用のワゴン、お弁当専用のワゴンなどがあります。日本の鉄道では絶対に見かけないであろう光景もありました。車内でお菓子や歯ブラシ、カードケース、スリッパ (わざわざ車両で売り込むものでもないと思うのですが(笑)) などの宣伝販売が行われるのです。販売員が各車両にやってきて、商品を手手に宣伝文句を長々と話します。商品を購入する人もいれば、お菓子の試食だけする人、「こんなの要らないよね～」などと言っている人がいます。



火车（汽車）快速车（快速列車）の外観。懐かしさを感じさせるデザイン。



突然孫悟空のコスプレをした人が現れ（！）、みんな立ち上がって見物したり、写真を撮ったりと大騒ぎ。

速くてきれいな高铁（高速鉄道）の登場によって、中国の人々の生活はより便利になりました。高铁（高速鉄道）の発達は、中国の経済発展を支える重要な要素の一つともいえるでしょう。その一方で、火车（汽車）にはあった知らない人同士の会話やアナログ感満載の車内販売、賑やかな車内の雰囲気などは、高铁（高速鉄道）にはありません。これから中国の経済水準や科学技術の発展に伴って、ますます鉄道の主流は高铁（高速鉄道）になっていくのではないかと思います。人々の生活が豊かになると同時に失われていくものに思いを馳せると、何だかちょっぴり寂しいような気もしますね。



鉄道の切符です。(名前が間違っていますが(笑)) アプリでの購入、支払いも可能で、とても便利です。